

特集3 | ホスピタリティに見るデザイン

4

DESIGNING FOR HOSPITALITY

ホテルのインテリア
箱根・翠松園 | HAKONE SUISHOEN

「箱根・翠松園」は、
国の登録有形文化財・旧三井翠松園の名を継承する
新しいタイプの現代和風の「旅館」である。

日本旅館の贅を尽くしたおもてなしと、
シティホテルの機能性とプライバシーを融合させ、
「RYOKAN」スタイルというコンセプトを打ち出した
世界に向けた日本リゾート。

メインダイニングとして再生した
旧三井翠松園の「レストラン・紅葉」を中心に、
3,000坪の敷地には、和と洋が混在して極める
23室のラグジュアリーな別邸が点在し、
インテリアは全室、趣が異なるスイートルームである。
リピーターが圧倒する魅力は、
ハード・ソフト両面のホスピタリティが
形になって見えるからだろう。

箱根湯本駅から山道を登り小涌谷の杉林の中へ下りていくと、周囲の喧噪から隔絶された世界が存在する。

そこには翠松園という文化財の指定を受けた昭和の佇まいを今に残したような家屋があり、かつては三井家の別荘として利用されていた。

今回のプロジェクトは、この翠松園をレストランに修復し、そこを中心に宿泊棟、ロビー棟などを点在させた全23室の旅館とす

ることだった。

初めて現場を訪れた際に、杉林や山々の景色の中に建物を溶け込ませる、建築自体を隠してしまいたい、そして旅館が景観と一体となってゲストを迎え入れることができたらいと感じ、デザインをスタートさせた。

国道1号線沿いにある入り口から続く土と瓦の壁が、ロビー棟のエントランスへとつながっている。ロビーでは暖炉、御影石、ナラの無垢材、銀箔などの自然素材をできるだ

け使って伝統的な工法を用い、装飾的な要素を排除したシンプルなデザインでまとめることで、どこか懐かしいような、ゲストが暖かみや優しさを感じられる落ち着いた雰囲気をつくった。

ゲストはこのロビー棟から宿泊棟へ徒歩で移動する。その際に中庭や杉林、山並みなど自然の風景の中を歩いて客室へと向かって行く。私はこのような一連の行動をひとつの物語として捉えている。それは現

実の世界から別世界への誘いであり、普段の生活では感じられない体験をすることである。この旅館にとって、ゲストに提供できることは、物理的なものは当然であるが、その場の雰囲気を体験していただくこと、そのためのサポートが施設やスタッフにとってのホスピタリティのひとつである。

客室の中でもロビー同様に、できる限り自然素材を用い、近代的なマテリアルと対比させるシンプルなディテールで装飾的な要

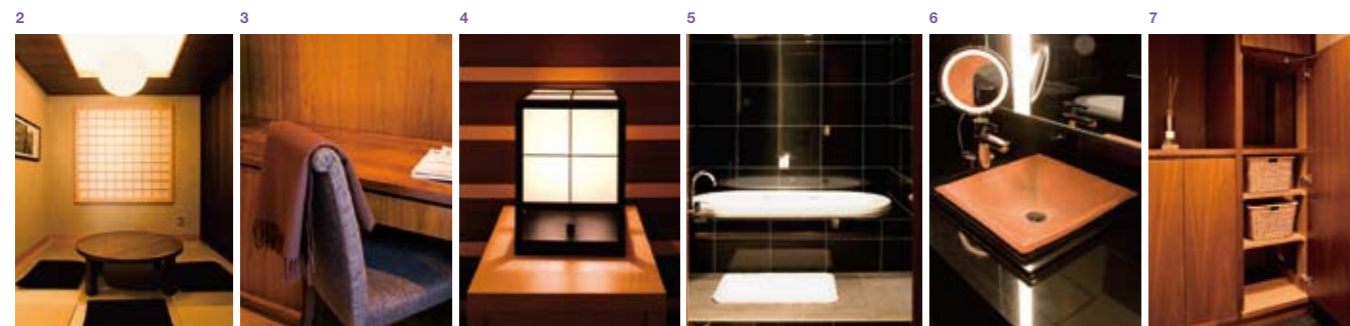
素は極力なくしている。また、客室のデザインは23室すべての部屋で違う設えになっている。これは同じゲストが何度訪れても、来るたびに新しい発見があるように設計している。しかしデザインは違っていても、共通して考えていることがある。落ち着いたカラースキームのマテリアルを選ぶこと。ゲストが感じるであろう視線の高さを低く抑えられるように家具、建具、造作、アートなどを配置すること。さらにそれぞれの距離や

間隔に気を配り、日本人の持っている“落ち着き高さ”を保っていることなどである。ホスピタリティとは、人それぞれ感じ方はさまざまであるが、人間の意識の中にある“何となく落ち着き”や“何だか懐かしい”という、誰もが持っている共通した部分で共感できることではないか。そのために決して華美で過剰なことは必要ない。“ちょうどいい”と思えるところすべてが調和することが望ましいと考えている。

さなだ・まさふみ——ディレクター、M-style代表取締役 / 1971年生まれ。東京電機大学工学部建築学科卒業。2000-05年、スーパーポテトに在籍。その後、有限会社M-styleを設立。

DESIGNER'S COMMENT

デザイナーズコメント | 新しくて懐かしい空間へ 真田雅郁 | Masafumi Sanada



1—客室・尚(ねがう)のリビング・ダイニング:ウォールナットを基調とし、重厚な雰囲気を醸し出している。奥のアイランド型キッチンには、パーティなどで活躍したり、料理人を呼び料理を振る舞ってもらうことも可能
2—大人数の客に対応できるよう和室も設けられている。正方形の畳がモダン
3—ベッドルームのライティングデスク:さりげなくブランケットなども用意されている | 4—温もりを感じさせるベッドサイドの照明
5—客室には内風呂と露天風呂が付いている | 6—黒御影石とやきもの組み合わせが重厚な印象を与える洗面台
7—玄関脇に設置されたバトラーボックスの客室側:スタッフと顔を合わせずにルームサービスを受け取ることができる



8—客室・章(あや)のベッドルーム:インテリアは自然素材でまとめられている。ベッドサイドは木調で、箱根の伝統工芸・寄木細工を思わせる
9—優雅な気分を味わえる籐製のソファ
10—客室・尚に備えられたワイングラスやカップ:客室にはチャージフリーのミニバーや12種類の最高級のコーヒー豆の用意もあり、満洒なカップで楽しむことができる
11—客室・淳(きよ)の露天風呂:自家温泉の掛け流し。木調で統一し、開放的でくつろげる空間になっている
12—露天風呂に吊るされた簾(すだれ)が情緒を誘う | 13—玄関に置かれた「リナーリ」のフレグランス:部屋の特徴に合わせてセレクトされている

「箱根・翠松園」は2007年、「RYOKAN」スタイルを打ち出してホテル業界に参入しました。コンセプトは世界に発信する日本リゾート。日本旅館ならではの「温かみのあるおもてなし」とシティホテルが持つ「機能性とプライバシー」、この2つを融合させて贅を尽くす…。ここにわれわれが志した「RYOKAN」スタイルがあります。2007年の開業ですが、今では歴史的な建物の名と精神を受け継ぐラグジュアリー

な旅館としてイメージが定着し、リピーター率も全体の3割を越えました。ここでは、プライベートなひとときをお過ごしいただくことを最優先に考えています。チェックイン後は、客室には一切立ち入らない。当旅館のお客さまの層を考えると、一度、部屋に入ったら、他人の目に触れることなく心身を癒やすことを真に望んでおられるからです。必要なものはバトラーにお申し付けいただければ、すぐさまお届けし、客室の玄

関脇に備え付けたバトラーボックスを使えば、顔を合わさずにルームサービスを受け取ることもできます。また、ターンダウンサービス(夕食前にベッドメイキングを施すこと)はリクエストスペースで行っています。部屋数は23室ですが、お客さま一人ひとりと距離を保ちながら親身に接することができる理想的な数だと考えています。特に、箱根はご利用の仕方も、お客さまの層によってさまざまです。お客さまがここで、さらにお客さまをお

招きする、お食事でジョイントする、あるいは、お部屋に料理人を呼んで料理を振る舞ってもらう…など、多様なニーズにお応えしています。また、客室のスタイルをすべて変えたことも大きな特徴です。予約の際に自分の好みの部屋を指定し、「別荘」気分を味わうことができますし、部屋を変えることによって、何度訪れても新鮮な気分を味わうことができます。客室にはゆったりとした内風呂の

他に、全客室に掛け流しの露天風呂を備えるなど、上質なひとときをお過ごしいただくための趣向が揃っています。大正14年に建てられた築85年の国登録有形文化財・旧三井翠松園は、メインダイニングとして、なお活躍中です。温泉地に来たら、年代にかかわらず和食を…というお客さまが圧倒的に多いようです。日本人のDNAがそうさせるのでしょうか。敷地のほぼ中央にある由緒ある建物に引き寄せ

られていきます。「箱根・翠松園」は国道1号線沿いに、さりげなくモダンな構えで、寡黙に佇んでいます。しかし、そこからは想像もできない贅沢な別邸が、奥に奥にと点在しています。

【建築概要】

名称：箱根・翠松園
所在地：神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷519-9
敷地面積：9,583.842㎡ | 建築面積：2,209.53㎡
延床面積：4,026.67㎡ | 客室数：23室 | 開業：2007年
ホームページ：<http://www.hakonesuisho.jp/>
内装設計：M-style

OWNER'S COMMENT

オーナーズコメント | 「RYOKAN」スタイルという試み 清崎 努 | Tsutomu Sezaki

14



15



16



17



18



14 — エントランス：足を低く抑えてガラスで透かせ、光を入れつつ人の気配を感じさせる空間にしている。右はロビー・談話室兼ライブラリー
15 — 緑に溶け込むよう建てられた「杉の楼」外観：レストラン・紅葉を中心に3,000坪の敷地に4つの宿泊棟が点在している
16 — やきもの製のエントランスの照明：ここにも自然素材が使われている
17 — バー・伊都(いと)：障子や欄間を活かした和の空間に300種類の飲み物が並ぶ
18 — 客席：和と洋をマッチさせ、魅惑的な空間を演出している

19



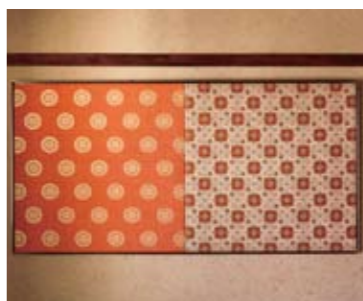
20



21



22



23



19,21 — レストラン・紅葉：旧三井家の別荘。国の登録有形文化財に指定された「翠松園」を修復し、メインダイニングとして営業。日本家屋のゆかしい雰囲気も漂っている
20 — 築85年という歴史の重みを感じさせる外観
22 — 壁に掛けられたオリジナルの織物を額装し、インテリアに…
23 — エステティックサロン・Spa by sisley：清潔感あふれるスタイリッシュな空間。自然素材をふんだんに使った談話室や客室とは対照的なドラマチックな見え